

第 9 回山陽小野田市地域公共交通会議
会 議 録

協議事項

議案 1 地域公共交通網形成計画 骨子案について

発言者	発言要旨
事務局より説明	
会 長	質問・意見等あればお願いしたい。
委 員	18 ページの「1-1」、37 ページの「①」の標記は必要ない。
事務局	削除する。
委 員	56 ページにおいて、交通結節点と乗継拠点の「将来の方向性」の記述が同じであるが、重みが違うと思うがどうか。
事務局	交通結節点については非常に大切な部分であるので、表現を整理し、交通結節点に重点を置いた内容となるようにする。
委 員	ハード的なものも含めてある程度検討が必要と思う。
会 長	非常に大事な部分であるので、事務局で再検討してください。
委 員	60 ページの目標 2-1「市民の公共交通利用率」と59 ページの目標 1-1「鉄道の年間利用者数」との関係について、市民の公共交通利用率を30%から50%に増加させる目標であるが、どういう意味か。
事務局	目標 2-1 の設定の基準は、アンケート調査で公共交通を利用されていない方が70%おり、この利用されていない方に利用させていただくことで利用率を30%から50%にする趣旨である。
委 員	60 ページのバリアフリー化について、厚狭駅のエレベーター設置が現状0%となっているが、現在エレベーターは設置されていないのか。
事務局	厚狭駅の新幹線口には、エレベーターは設置されているが、今回の目標設定が、在来線のバリアフリー化を想定していたため、現状の標記となっている。わかり易いように標記したい。
委 員	59 ページ、目標 1-1 の利用者の算出根拠は何か。
事務局	統計調査の数値である。小野田線は目出駅から妻崎駅と本山支線の各駅の利用者数、美祢線は湯ノ峠から板持駅までの利用者数である。
委 員	美祢線については、山陽小野田市ではない駅がほとんどであるので、山陽小野田市の計画の中に、美祢線を計画目標とすることは問題ないか。

事務局	現在、美祢線利用促進協議会を美祢市、長門市、山陽小野田市で構成し、その中で美祢線全体の利用促進に努めているので、美祢線全駅の利用者数を目標値にしている。
会長	美祢線利用促進協議会において、美祢線の利用促進は掲げているので、この計画で美祢線を入れるかは、再度検討してください。
委員	29ページ図27と59ページ目標1-1で、JR山陽本線の利用者数を見比べてみると、厚狭駅の利用には、新幹線の利用者を含んでいるようであるが、問題ないか。
委員	市の公共計画の目標値に新幹線利用者の数値を含むのは違和感がある。
事務局	厚狭駅の利用者数については、新幹線と在来線の利用者をあわせた数値で公表されている。今回の計画は、都市計画、観光を含んだ計画であり、市外からの来訪者にも公共交通を使っていたきたいという思いもあるため、新幹線利用者は関係ないとは言えないと考えている。このまま新幹線の利用者を含んだ数値目標としたい。
委員	大学生などは、小野田線等を使い厚狭駅から新幹線に乗って九州などに行っているだろうし、新幹線の利用者が含まれていても問題ないと思う。厚狭駅については、新幹線利用者を含むなど注釈をつけるとよいのではないか。
会長	事務局で注釈を入れるなど、わかり易い標記としてください。
事務局	事業計画について説明
委員	66ページの事業4「鉄道・バスの相互利用の促進」事業については、実施年度が平成31年度からとなっているが、共通乗車制度は利用促進の観点で非常に良い事業であると思うので、できるだけ早い時期から実施できないだろうか。
事務局	本市は、JR小野田線・美祢線とバス路線が存在しており、アンケートでも便数の増加希望があるため、本事業を掲げている。JR事業者とバス事業者との連携・調整が必要な事業であるので、調整・検討の期間を要すると考えている。
委員	交通型のICカードの導入などはどうか。
事務局	公共交通は繋がっているので、ICカードについては、全県的な導入が必要になる。県に要望は伝えているが、バスの乗継やJRとバスの連携など、利用者の利便性向上のためには必要であると考えているので、今後の検討課題としたい。

会 長	事業年度の考え方について、確認したい。
事務局	72ページで説明すると、点線は協議期間、実線は実施期間である。
委 員	事業年度＝実施予定年度という理解でよいか。
事務局	そのとおりである。
委 員	72ページの図において、目標と事業の結びつきがわかりにくい。線などで結びつけるとわかり易いのではないか。
事務局	わかり易いよう整理する。
委 員	72ページにおいて、エレベーターの現状値が何駅となっているが、上りと下りがあるので、60ページのようにパーセントで表現したほうが良い。
事務局	わかり易い目標に修正する。
委 員	68ページのサンパークと山口東京理科大学との連携、メリットとなる取組内容については、具体的にどのようなイメージを持っているのか。
事務局	山口東京理科大学においては、現在スクールバスがあるが、公共交通を是非利用していただきたいため、学生割引の導入やおのだサンパークや商店では、公共交通を使うと商品割引やポイントサービスを受けられるなどの取組を考えたい。
委 員	路線バスの再編について、利用の無いバス停は、現在の位置で本当に良いのかアンケート調査をとってみてはどうか。
事務局	今回のアンケートでもスーパーの近くにバス停が欲しいなどの意見もあったので、交通事業者とも協議したい。
委 員	公園通りのバス停がわかりにくいと利用者からの声を多く聞いている。
委 員	65ページの「二次交通」の意味と、69ページの「モビリティマネージメント」の注釈の内容がわかりにくい。
事務局	わかり易い表現となるように修正する。
委 員	69ページに「高校や大学は鉄道駅の近くに立地していることが多い」という標記があるので、わかりやすく地図などを入れてはどうか。
事務局	そのようにする。
委 員	小野田高校が駅の北側にあるのだから、小野田駅から北側に行けるよう改札口を整備するなどを目標にしてはどうか。
事務局	小野田駅の自由通路や駅の橋上化については現段階では未定である。駅から高校の通学については、地下道があるため、北側へは移動でき

	る状況である。
委員	駅の橋上化などは難しいと思うが、要望があるのであれば、学生の通学時間だけ開放する北側改札口を作るなどの方法も検討されたいと思う。
委員	69ページ、事業7の対象は高校生や大学生であるが、公共交通にはもっと小さい頃から親しむ取組をして欲しい。
事務局	現在、小学生を対象にバスの乗り方教室を実施している。小さい頃から公共交通に親しんでもらうために、交通イベントなどを実施したい。
委員	62ページの収益率や平均乗車密度の低い系統を中心に地域の実情にあった運行形態の見直しにより、利便性が向上するとはどういうイメージか。
オブザーバー	イメージとしては、現在の大型バスでは団地内に入れないが、バスを小型化し、細かく回ればバスを利用するという意見もアンケートの中でいただいている。そういった地域のニーズに応えられないため、利用者や収益率が下がっていることも考えられるため、今後調査が必要となるが、細かく周回して利便性の向上を図れば、収益は上がっていくのではと考える。
委員	計画を遂行し、基本目標を実施できるよう取り組んでいただきたい。
委員	現在あるバスカード（県内共通）割り増し分の予算を原資として、将来的にICカードの導入が出来たらと思うがどうか。
事務局	バスカードの予算については、わからないが、ICカード導入については、経費負担の問題も大きいと思う。
会長	62ページの図59は、本市の現状は放射線型のバス路線で、将来も現状の形であるという認識でよいか。ゾーン化ではなくて良いか。
オブザーバー	利用者の実態からすると、放射型の形がよいと考えている。北からはサンパーク、公園通りまでの利用者、南からは小野田駅までの利用者が多い中で、ゾーン化にすると北からの利用者は小野田駅、南からの利用者は公園通りで乗り継ぎすることになる。あと少しで目的地であるのに乗り継ぎをさせることは、非常にストレスになると考えている。 連携計画作成時と比べて事業者の努力により路線の効率化等が図られている。
会長	バスを利用される方のニーズにあった路線となるよう関係者と協

	議しながら取り組んでいただきたい。
委員	74ページの図の表題が「事業の進捗」となっているが、事業ではなくて目標ではないか。
事務局	目標に訂正する。
委員	道路管理者が主体となる事業は現時点ではあるか。
事務局	将来的には、交通結節点などの整備でお願いさせていただくこともあるが、現時点ではない。
会長	今後のスケジュールについて
事務局	本日の意見を踏まえて計画案とし、3月末までにパブリックコメントを実施し、計画をまとめたい。 パブリックコメント後、3月末に協議会を開催し、いただいた意見を反映させて計画策定終了としたい。
会長	次回はパブリックコメント後の3月末に開催する。